

平成20年0月0日

No.01

(会計事務所)

経営者が会計事務所の活用をどのように考えているのか、会計事務所からみてなかなか分かりません。経営者も会計事務所か何をいくらのか分からないうからだと思ったり。税理士という看板も掲げているので、税務署対策、よ(分)からない税務申告書の作成もすだけだと思っている方が大勢だと思ったり。税務署対策税務申告書の作成は重要なことですが、それだけで満足しているのでは。不満の声をたまに聞きます。私もこの会計事務業界に10年程いて、殆ど自身の月次給与表の作成、決算書・申告書の作成、等、実行した後の後処理の仕事をしています。お客様も私共に事後の報告、結果だけも知らせてきます。私共も後処理、お客様も結果報告の関与で、会社の成長・節税の可能性に対して関与していると感じています。経営者もこれからの時代、会計事務所に対して、ただ決算書・申告書の作成も依頼するのでなく、自社の情報、経営者がしたいことを伝えたえ、会計事務所に対して要望をい(事)が必要ではないかと思ったり。決算数値からの問題点の指摘、良(事)為のアドバイス、叱(事)つもらたり、激励、提案を受けたいと思ったり。経営者も管理する者は社内にはいません。会計事務所は経営者に対して、うるい人、細かい人、しつこい人、叱(事)か(事)人が良(事)い会計事務所のスタッフではないかと思ったり。経営者は決断してうるい、しつこい、細かい、叱(事)かる会計事務所を選ぶこともです。私達も会計、税務だけでなく、正しい経営、生活の字(事)の情報も仕入れ、お客様と共に字(事)が共に繁栄の努力をしようと思たり。良(事)いものに投資をしていくことだと思たり。利益の為に会社をつくりましょう。

高林幸彦